



2021年5月11日

各 位

会 社 名 株式会社テクノマセマティカル
 代 表 者 名 代表取締役社長 田中 正文
 (コード番号 3787 東証第二部)
 問 合 せ 先 取締役副社長 出口 眞規子
 (TEL. 03-3492-3633)

2021年3月期 業績予想の修正および営業外収益（為替差益）の計上に関するお知らせ

決算集計状況を踏まえ、2020年11月10日に公表いたしました2021年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

また、2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）において、営業外収益（為替差益）を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）

(単位：百万円、円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	620	△75	△77	△80	△30.85
今回修正予想 (B)	416	△250	△242	△245	△94.80
増減高 (B - A)	△204	△175	△165	△165	—
増減率 (%)	△32.9%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	524	△176	△173	△176	△67.93

2. 修正の理由

前回発表の予想は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながらの経済活動の再開が順調に進み、第3四半期から各種経済活動の回復度合いが徐々に加速していくという前提条件の下、ソリューション事業売上とロイヤルティの増加を見込んだものでした。

売上高は、ソリューション事業ではほぼ計画値を確保できましたが、同感染症変異株による感染再拡大などで顧客の開発計画見直しや生産・出荷の低迷・停止が続いたため、ライセンス事業では第4四半期に見込んでいたハードウェア部門の大型新規案件の獲得が期ずれし、また、ロイヤルティがソフトウェア、ハードウェア両部門ともに計画値を大幅に下回った結果、32.9%の計画未達となりました（未達額：ライセンス事業202百万円、ソリューション事業2百万円）。また、利益面は、売上高の大幅計画未達の影響による下方修正の結果、赤字幅の拡大となりました。

なお、2022年3月期の予想につきましては、5月13日発表予定の2021年3月期決算短信でお知らせします。

3. 営業外収益（為替差益）の計上

当社は、2021年3月期第3四半期累計期間（2020年4月1日～2020年12月31日）において為替差損13百万円を計上していましたが、為替相場の円安進行により、2021年3月期第4四半期会計期間（2021年1月1日～2021年3月31日）において、13百万円の為替差益を計上する見込みです。この結果、2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）においては、為替差益と為替差損の相殺の結果として、為替差益0百万円を営業外収益に計上することとなる見込みです。なお、上記の金額は、当社が保有する外貨建資産等の決済及び期末換算レートによる評価替により発生したものであります。

以上

（注）上記の見通しは、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性がありますので、当公表の内容に全面的に依拠して投資等の判断を行うことはお控えいただきますようお願い申し上げます。